

# 衛生委員会だより 2023年7月

～コロナ対策緩和とインフル～

## 1. コロナの陰に隠れているが...油断は禁物

新型コロナウイルスの流行に伴い影が薄くなったのがインフルエンザです。しかし、2022年シーズンには大流行といかないまでも、厚生労働省発表では2023年第10週に注意報を優に超えるレベルの流行がありました。

これから新型コロナウイルス感染症の感染対策が緩和され、インフルエンザも流行する可能性があります。今回はインフルエンザウイルスとそのワクチン接種について解説をしていきます。

## 2. インフルエンザの症状

インフルエンザウイルスにはA型、B型、C型と3つの型が存在し、毎年流行するのはA、B型となっています。風邪と同じく気道(空気の通り道である気管や、その先で呼吸に関わる肺など)にウイルスが感染して起こる疾患です。

インフルエンザウイルスに感染すると潜伏期(3日以内であることが多い)の後、発熱、頭痛、喉の痛み、筋肉痛、関節痛など、風邪と同じような症状が出現します。咳や鼻水などの気道症状も風と同様ですが、**風邪よりも全身症状が強い**のが特徴です。

## 3. インフルエンザのワクチンは打つべき？

インフルエンザワクチンは予防に非常に高い効果を挙げています。高齢者におけるインフルエンザワクチンは健康な65歳以上の高齢者の発病を45%、死亡の80%を阻止する効果があったという報告があります。

インフルエンザワクチンを接種しても感染を完全に防ぐことはできないのは確かです。しかし、**かかった際の症状はワクチン接種している人としていない人で大きな差がでる**のです。